

日程第2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

2月26日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

4番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、合併10年、各種データやアンケートで見る市政の課題と対応について。

合併から10年、今までは新市建設計画を基本にした総合計画のもと糸魚川市の一体感の醸成に力を入れた市政が展開されてきたと考えています。

この間、平成25年には市町合併の効果等の検証と課題把握として、中間評価の報告があり、その時点では「市町合併は、長期的な視点で行われたものであり、本来の効果が現れるまでには一定の期間を要することから、現時点で総括的な評価を行うには至っていない。」とのことでした。

ただ、現在、平成29年度からの第2次総合計画の策定にとりかかっており、今度の計画には合併の効果等の検証と課題把握を含め、10年間の総括を基本に据え、新たな夢のある計画が必要であります。

第2次総合計画の策定方針には、「社会経済環境と合併10年間の総括を踏まえて」、さらに、「その後の社会経済情勢の変化や新たな住民ニーズへの対応など、本市が抱える課題に的確に対応する」として、市民参画を基本に、全職員の創意と熱意により策定作業を行うということで、大いに期待しているところです。

そこで、今回は「合併10年、各種データやアンケートで見る市政の課題と対応について」、実際の数値や住民の声による市政へのかかわりに関し、どんな受け止め方をされ、第2次総合計画などに反映させていく考えであるか伺います。

(1) 市民アンケートで見える市民満足度などについて。

過去3回にわたり総合計画の策定時に市民アンケートを実施し、これまでの取組を検証したり、市民の意識を確認していますが、市民満足度など住民の意向をどのように受け止め、今後反映させる考えか伺います。

(2) 第1次総合計画の目標指標、長期財政見通しから見える市政の進捗と第2次総合計画への対応について。

総合計画の目標指標は達成度や効果をわかりやすく示すための「ものさし」であり、長期財政見通しは財政的視点から補完し、計画の実効性を高めるためのものと思いますが、第

1次総合計画における目標指標、長期財政見通しから見える市政の進捗と第2次総合計画への対応について伺います。

(3) 「新潟県100の指標」で示された分野別の市勢に関する受け止め方について。

新潟県では、人口、経済、福祉、教育や財政など各分野から選んだ100項目について、県内における市町村の順位を掲載し、生活や社会に関連する様々なデータを提供していますが、毎年データをどのように受け止め活かしているか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川市の印象に関する大半の項目で、よい印象が増加していることから市民の印象は改善してきていると感じております。

一方、産業や健康福祉分野における満足度が低い結果となっており、産業振興や雇用環境の整備、地域医療体制の充実などの取り組み強化が必要と認識いたしております。

満足度の低い施策については、原因分析を行い、実施指標を見直し、アンケート結果を総合計画の策定に活かしてまいります。

2点目につきましては、第1次総合計画の76項目の目標指標のうち、26年末では55項目が8割以上の達成率となっております。

また、財政計画では、新幹線関連事業などの大きな事業がほぼ完了したところでありますが、財政健全度を示す実質公債費比率は、予想より低く抑えられている状況であります。第2次総合計画の策定に当たっても達成度を踏まえた目標指標の設定や長期財政見通しの策定により、効果的・効率的な行財政運営に努めてまいります。

3点目につきましては、他市町村と比較することにより当市の実態や課題が見えてくるものと受けとめており、各種の計画の策定や施策を立案する際の参考といたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごいただきますのでよろしくご願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、2回目の質問に入ります。

まず、1点目の市民アンケートに見える市民満足度などについてであります。

まず、この調査ですけれども、調査のお願いの中で当市を取り巻く社会経済環境が大きく変化しており、時代に合った新たなまちづくりの基本指針が必要のことから皆さんのご意見をお聞きして、

これまでの取り組みを検証するとともに、これからのまちづくりに生かすために行ったものということですよね。具体的には、取り組みの検証とどのような生かし方を考えているのか、まずお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

おはようございます。

今回のアンケートについては、総合計画策定の前、5年前の状況と比較して5年間の取り組みが市民から見てどう映るか、そういったことを検証する目的というふうに思っております。それを踏まえて、市民の意識、考え方、糸魚川市の見方、そういったものを改善するにはどうすればよいか、そういったことを第2次の総合計画で生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

このアンケートの結果なんですが、まず具体的なところでは、糸魚川市の住みやすさ、住みにくさ、この点、今回、住みやすいが47.7%。前回、平成22年の12月の2回目の49%と比べて若干減少しているんです。この点に関しては、どのように受けとめておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

満足度のほうを見てみるとやはり医療のほう、それから雇用の関係、そういった面でやはり満足度が低いという結果になっております。当市を取り巻く環境の中では、人口減、そういったものによってそういった環境もやはり見方が少し変わってきてるのでないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

ちなみに近隣ということで上越市、妙高市、同じ設問の住みやすさ、これに関して、上越市は79.2%、妙高市は70.4%ということで非常に高い評価があるわけですね、かなり糸魚川市とは、雰囲気は違うんですけども。必然的に住みやすいところへ人は流れていくわけですから、この数字には危機感を感じているんですが、先ほど医療・雇用の問題が大きいんじゃないかというお話も聞けてるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに、上越・妙高市と比べて市民の糸魚川市に対する感じ方が低いという結果になっております。そういったのを分析する中では、1つは上越市という商業施設、雇用、そういったものがやはり当市よりも集中している、そういった面も大きなものがありますし、妙高市と上越市の関係、そういったものも大きく影響しているのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この点で糸魚川市はどのように感じるかという設問で、先ほどから話があります働く場所、物価、医療体制、買い物、交通の便、この5項目で50%以上、半数以上の方が不満を感じているというふうなことなんですが、住みやすさの数字が上らないのは、これらの5項目が中心になっているんじゃないかと思うんですが、その辺さらにこういう状況に関してどのように、この5項目に関してはどういうふうに捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今、言われた5項目というのは、簡単に改善するというのは、非常に難しい部分もあろうかと思っております。

ただ、市民の感じ方を変える、そういうことはいろんな形でやっていく必要があると思っております。隠岐のパンフレットにもありますけれども、ないものはないという、ないものはない、ある中でいかにまちづくりを進めていくか、そういう形で進める中では、最終的には、ないものはなくなるんでないかなという気はしておりますので、やはり考え方の革新、当然、施策としていろんな数値を上昇していくということも非常に重要ですが、そういう中で市民の医療に対する考え方とか、福祉に考える考え方、それからまちづくりの考え方、そういったものも一緒になって変えていく、考えていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

特に、地域医療体制、この維持・充実という点、満足度調査の不満とやや不満で66%、重要度では、重要、ある程度重要で90.6%。平成22年の前回調査、これは不満とやや不満で65.8%、重要、ある程度重要で90.1%。これ本当に全くと言っていいほど数字が変わってな

いわけですよね。この状況をどのように捉えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

確かに、議員がおっしゃいますように医療の部分につきましては、全国的な医師不足の中で大変厳しい状況が続いているということで認識しております。

ただ、行政のほうも手をこまねいているということではなく、いろんな形で活動させていただいておりますが、なかなか実として結んでいないというような状況でございます。

ただ、近年、糸魚川総合病院におきましては、研修医等が去年、おととしと6名ずつマッチングするというような形で、それは県内の中で、また全国の中でも珍しい状況でございます、そういった方々が地域に根差していただくような形で今後も進めてまいりたいというふうに思っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

不満の具体的な内容の分析、市民の不満といえ、まずは病気にかかり、身近な医療機関での受診の際、感じる事が一番大きいと思うんですが、直接、市で市民の声として受けとめているものがありましたら伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

市民からの声という部分の中では、皮膚科とか泌尿器科、特定診療科目につきましては、糸魚川総合病院には、常時いるというような状況でございませぬ。そういった部分につきましては、常時開設できるようなということで声は聞いているところでございます。

ただ、こちらのほうにつきましても、全国的な専門とする医師数が減少する中で厳しい状況でございまして、今、日程は毎日ではございませぬが、大学側のほうの協力を得る中で診療させていただくというような状況でございませぬ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

この件については、市の運営している診療所以外は、それぞれの経営者によるお考えもあるわけですが、市民の声というのは、医療体制全般に対する不満であったり、要望でもあるわけでは

ので、市の対応といたしましては、糸魚川病院初め開業医の先生方とも連携が当然必要になってくるわけですが、その点ではどのようなつながりで対応されてるかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

今、糸魚川総合病院、また糸魚川医師会との連携の中では、やはり病院は病院の役割、開業医は開業医の皆様方の役割というものがございまして、今後また高齢化に伴いまして在宅医療という分野が重要な部分を担ってまいりますので、そういった連携がどういった形でとれるのかという部分につきましては、協議させていただいておりますし、またその現場には、介護職の方もかかわってまいりますので、そういった方々が連携する協議の場、そういったものを設けて協議を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今回のアンケートの自由意見のところ、市の病院では予約が必要で、すぐに診ていただけないとか、また結局上越へ行き、ついでに買い物もすることになって市が盛り上がらないという意見や、上越へ行って診てもらったら、もう少し遅かったら大変だったという意見もあったり、これが1人や2人の意見でないような気もしてるんですが、この辺、具体的なこういう意見が出ておるんですが、こんな事例に対しては、どんなふうにとめておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

自由意見欄でそういった記載があるということは承知しておりますが、個々具体的なものという形では、私どものほうに正式に入ってきたようなものはございません。

ただ、いろんな形のうわさの中では、今、総合計画のアンケートの中でご指摘があったような部分は、耳に入ってくるものもございまして、そういった部分につきましては、確かに糸魚川総合病院でない診療科目もございまして、やはり市外のほうにという部分は、いたし方ないという部分もありますが、そこを常時ではなくしてもスポット的においでいただくとかそういった手だてはとれないかという部分の中で糸魚川総合病院と協議を進めさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

先ほど申し上げました、いわゆるアンケートの内容で非常に厳しい意見の反応があった5項目、いわゆるいずれも地方創生における人口減対策、それから定住対策の基本であるわけです。

したがって、第2次総合計画の上で策定方針の趣旨にも合致しておりますので、ちなみにこの5項目以外というのは、かなりの満足度を上げておりますので、この不満の大きい5項目に関して、特別に第2次では、重点を置いていくべきかなというふうに思っておりますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

そういう意味でも、今回、策定した総合戦略というのもそういう意味合いも持っているというふうに思っております。いずれにしても、やはり市民から見た糸魚川市の、いわゆる感想というものが、その結果が低いということは非常に残念なことと受けとめておりますので、やはりそういった数値が上るような事業の見直し、そういったものはしっかり進めていく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

住民要望の具体的な事例ですけども、第1次の後期計画の中で能生地域において、能生国保診療所の改修、それから医療機器の整備をしていただいたわけです。大変喜ばれておりました、人口減対策、定住対策に大きく貢献をしてるというふうに感じておるんですが、1年たったんですけども、利用度等については、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

能生国保の診療所につきましては、改修また機器整備の後につきましては、能生谷だけではなくして能生の町うちのほうからも一部患者様が来ていただけるというような状況でございます、患者数につきましては、微増というような傾向でございます。そういった意味の中で地域に根差した医療ということで進めさせていただくこととさせていただきますし、また先ほど申し上げました糸魚川総合病院のほうに研修医が来ているという部分の中で、能生国保診療所におきまして地域医療の実践の場というような形で提供する中で、地域医療を研修医の皆様方が直接肌で感じるというような場にさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

先ほど申し上げましたように、糸魚川病院などでは患者が集中してなかなか予約がとれないといった現象もあるそうですので、この能生の国保診療所は、せっかく建物も装備も最新のものにしていただいたわけですので、広く市民の皆さんから利用していただくために診療所の活用方法、これをもっと考えていただいて利用度を上げていただいたらどうかなという気もするんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

確かに、能生国保診療所につきましては、MRI、CTというような高度な医療機器が整備させていただいております。これにつきましては、能生地域の皆様方に限定した使い方ではなくして、全市的な皆様方でお使いいただくような形で、そういった分につきましては、もう少し広報等通じる中で、能生国保診療所にそういった機器が整備されているというような部分について広く周知をしてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

次ですが、中学3年生のアンケート、これによりますと市外に住みたいという意向が28.7%、前回よりも5.3ポイント多くなっておるんです。憂慮しております。しかも、今までを含めて3回ともに25%前後、市外に住みたいという意向が続いているわけです。一般の人たちが、ちなみにこの設問ですと10%程度ですから、中学3年生においては倍以上にもなっておるんです。これを放置していたら大変なことになってしまうというふうに思うんですが、今回の数字から見ますと現在の中学3年生360人中103人の子供たちが既にそのような考え方を持っているというふうなことになるんですけども、この点に関してはどのように受けとめておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回のアンケート結果を一般と中学生とを比較してみたときには、やはり子供たちが地域に対する愛着、そういったものについては、やはり一般よりもかえって高いふうに感じております。

ただその一方で、今言われたように、将来もずっと住み続けるかというとその数字が低くなっている。やはり働く場とか買い物、それから娯楽そういったものに対して市外への憧れというものが子供たちというのは強いんでないかなという、それに対して一般の方というのは、もう既に糸魚川市

に住んで生活しておられるので、中学生と比べると高い形になってますけれども、いずれにしても総合戦略という中では、一旦出てもいいけどやはりまた糸魚川に帰ってきてほしいというそういう思い、そういう施策、そういったものを進めていく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今、課長がおっしゃるとおり中学3年生、糸魚川市は暮らしやすいと思ってる人が64.4%、これ一般の47.7%よりもかなり多いんですね、暮らしやすいと。ですから、今、本当に親もとにいるせいかもしれませんが、暮らしやすいけども将来を考えるとここにはいられないというようなことで、非常に課長が今おっしゃるとおりの、本当にこれから希望を持って生きていく子供たちにとっては、やはりプラス面の多い地域へ気持ちは動くということは、これは当然だと思んですが、半数以上の市民が不満を感じている中に働く場所、これが入っているわけです。中学3年生にとっては、高校・大学、それから職業選択というふうな道筋を考えますとやっぱり頭のいい子はそろっと中学3年生ぐらいでも働く場所、こういうもんが入ってくるわけですが、この対策というのは非常に大事になってくるのではないかと思うんですが、こういう中学3年生の働く場所、これをかなえるためにどうするかということなんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

お答えいたします。

働く場がたくさんあるかないか一般と中学生と比較した場合に今、議員からのお話のように子供たちの気持ちがそのような数値であらわれてきてるわけでごさいます、今後の糸魚川の経済、それから産業振興の中におきましては、既存企業の拡充、また新たな創業、新たな起業への支援、それからいろんな多様な働き方があるわけでありますので、そういうところの方向性も市のほうが見据えながら総合的に支援していく必要があるのではないかなと思っておりますけれども、いずれにしても1人でも多く地元に残っていただけるようにキャリア教育も含めて、高校も含めてもっと足を運んで子供たちの気持ちを酌み取っていきいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

最近の事例でありますけども、海洋高校が随分変わってきたというふうなことがいろんなところで実感いたしているんですが、生徒、先生、学校、地域、行政ともに情報を共有して、いろんな取り組みが始まっているわけです。非常に存在感があるわけで、これをさらに発展させるためにはというふうに考えますと、全国に、あるいは世界に通用する人材の育成というふうなことになるんですが、そうなりますとここでも、実は、次は大学で市外へ行くとか、あるいは仕事でも市外へ行くと

いうふうなことになってしまうような危惧もしておりますが、ある意味では、海洋高校を卒業すると切れてしまうというふうな、地域と切れてしまうというふうなことになってしまっは困るんですが、この辺のところはどんなふうに対応しようとしてるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

昨年の4月からシーフードカンパニーということで、最後の一滴の加工場がオープンしていただきました。農林水産省のフードアクション2015で審査員特別賞をいただいたり、あるいはBSの日テレで青空レストランで取り上げていただいたり、非常にマスコミからも、また市以外からも非常に関心を持っていただいて生産量も伸びてきております。今の能水会OBの皆さんが運営母体となって取り組んでいただいておりますけれども、これらにつきましてもいずれその枠を超える必要があるんじゃないかなというふうに考えておまして、次のステップに向けて、今、議員からのご提案もありましたように自分たちが開発し、自分たちが製造してきたものが、卒業後もそこで雇用できるような仕組みを、今後考えていく必要があるなということで、次のステップに向けての調査・検討、それから方向性を出す時期ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私は、先日の地方創生の委員会でも言っておりますが、1つの提案ですけども、この海洋関係につきましても、新潟県立大学に水産学部をつくっていただいて糸魚川市に誘致する。あるいは、随分もうなくなって時間がたってるんですが、海洋高校にかつてありました専攻課程をつくって専門的な知識を習得できるようにする。そうしますと全国から学生を誘致するというのもできるわけですし、また相乗効果で水産関係の企業誘致にもつなげることができるんじゃないかと。先ほど課長がお話ありました起業できる環境、これも容易にすることもできるんじゃないかなと。非常に様子が変わってくるというふうに思うんですが、県あるいは国へそういう働きかけなり要望というのをしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

渡辺議員がおっしゃるように海洋高校の活動、産学官連携をした取り組みについては、非常に注目をいただいております。そのような中で、今、議員のほうからおっしゃられた提案の内容も1つの大事な方向ではないかというふうな思っております。海洋高校で学んだことが、さらにレベルアップして学んでいけるようなそういう場を考えていくということは、非常に大事だと思いますので、おっしゃる方向も含めて関係機関で連携した対応をしていけるように進めていきたいというふうな思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

それから、子供たちの地元就職に関する意識、県の新潟暮らし推進課で、先日お聞きしてきたんですが、県の調査では、両親や親族からのアドバイスによる就職活動への影響について、これを子供たちに問うたところ、73.5%が影響していると答えました。それから、地元就職に対する考え方の変化、ここでも67.9%が親や親族からの働きかけで地元就職を意識するようになったというふうに答えてるわけです。

したがって、親を初めとする周囲の環境というのは非常に大きいということがもうここで感じられるんですが、この辺の対応というのは非常に重要になってくると思うんですが、どのように今の話で感じますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

総合計画におけます市民アンケートの結果におきましても、働く場に恵まれていると感じている市民の一般の方、それから働く場がたくさんあると感じている中学生、このアンケート結果を見ますと中学生の場合につきましては、平成17年のときよりも働く場がたくさんあるというふうな認識がふえてきております。今お話のように子供たちを地元就職に結びつけるような、やはり親からの誘導も必要だというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

とにかく大事な市民アンケートでありますし、大きな財産でもあると思うんです。これらの声をいろんな面で生かす工夫をしていただきまして、単に数字を拾うということではなしに数字をつなぐというふうなことで多面的に展開していただきたいというふうに思います。

それから、2点目に入りますけども、まず第2次総合計画ですけども、作成作業が今進められておるわけですが、総合計画の法的義務づけそのものがなくなって、作成しなくてもいいということと考えますと、作成する場合の中身も従来のスタイルでなくてもいいというふうなことになるんじゃないかと思うんですが、今回の総合計画の作成のスタイル・手法、これには前回と変わりがあるんでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

法の位置づけがなくなって、当市においては条例での位置づけという形に変わってきております。そういう中では、今回の条例では従来どおり基本構想・基本計画という形で進めております。全国的に見るとやはりかなり変わったつくり方をしているところも出ております。そういう中では、市の最上位計画という位置づけも考える中で、他市の計画も参考にしながら次のステップというのにも考える必要があるというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

法的な義務づけはなくなったということに関してでありますけども、本当のところ、国の考え方というのはどうなんでしょうか、義務づけをなくした背景というのご存じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

やはり国が縛るのではなくて地方がみずから計画をつくり進めていくべきということのあらわれだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

報道によりますと、市町村側から基本構想は、実態として策定そのものが目的化しており、多額の費用をかけて策定しているけども形骸化しているというふうな指摘が、いわゆる市町村側から国にそういう発信があったというようなことも大きいというふうに言われておるんですが、この点に関しては糸魚川市としては、今までの課長のお話もありましたけども、こういう国に対して発信があったというようなことを報道してるんですが、糸魚川市としてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

糸魚川市においては、合併後、第1次の総合計画を策定いたしました。市の行政運営の最上位計画という位置づけで進めております。その状況については、第2次総合計画を策定中でございますが、その基本的な最上位計画という意味での位置づけは変わっておりません。そういう意味では、糸魚川市において行政運営、市政運営をしていく上での市民の皆さんからの意見、あるいは先ほど来、課題のお話もございましたが、そういう状況を踏まえて今後7年間進むべき方向を議会の皆さん、市民の皆さんと一体となって方針を決めていくんだということは、非常に重要な計画だという

ふうに位置づけております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いずれにしましても法律による義務に応じた計画策定から住民本位の計画策定というふうなことになるわけですが、市の自主的な取り組みとしての総合計画に生まれ変わるということですが、作成のスタイル・手法が変わってもいいんですが、問題は、市民や職員にわかりやすく共有できる、それから達成できる計画といえますか、達成したくなる計画にしていきたいと思います、この点くどいようですが、どのように考えておるかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現在、総合計画の基本構想のほうがおおむね固まって、基本計画の審議を進めております。そういう中で、基本計画のほうの書式、そういったものも少し工夫をして、見てわかりやすいような形、それから目標とする指標、そういったものも掲げる中で、また市民とどのような形で協働していくのか、そういったことも含めてなるべく見てわかりやすいような形にまとめていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今回は、作成手法として第2次系魚川市総合計画策定方針、この中で現行の総合計画で進めてきた各種施策の成果を検証し、合併10年間の総括を行うとともに30年先を見据えた計画づくりを行うというふうに言ってるんですが、どのような形で総括して作成に当たるのか。先ほどは目標指標の8割方達成しているというようなお話もあったんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回の総合計画の策定に当たって、その前段として各課でまとめている統計資料、そういったものについてもどういう形で推移してきたのか、そういうものをまとめております。先ほど市長の答弁の中でも76項目中、55項目で8割以上の達成率、26年末の数字でありますので、2年後ということを考えればそれなりの成果は出てきていることと考えておりますけれども、さらに現状を各課でしっかり把握することが必要だと思っておりますし、その上で実績に基づいた事業展開や施

策立案、そういうものを行っていきたいと思っております。

また、第2次総合計画では、よりわかりやすく施策の達成状況を示す目標指標の設定とか、やはりその目標値の根拠、そういったものも含めて見直しをしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

私、目標数値に注目しておるんですが、この目標数値は総合計画作成のどの段階で設定するのか、作成に今当たっている審議員の皆さんも目指す目標数値の考え方、この根拠がなかなか、ある程度示していただかないと現実的になかなか作成に当たれないんじゃないかなというふうなことも感じるんですけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

基本的には、基本計画を策定する中で目標数値も設定するものというふうに思っておりますけれども、ただ現状の設定の仕方を見てもやはり目標数値の考え方とか、なぜその目標数値にしなきゃいけないのか、そういったところがまだ十分整理できていないように感じておりますので、最終的な基本計画の策定に向けては、そういった数値の考え方というのをしっかり整理していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

いろいろ目標数値をどの時点でどう上げてという作成の手法もいろいろあるんじゃないかと思うんですが、私個人的に一般的な考え方かもしれませんが、まず問題点は何かというふうなことから始まり、数字はデータで立証して、次は問題点を解決する具体的な対案等の解決策は何か、いわゆる処方箋、それから3番目には、いつまでにどのぐらいの成果を達成しようとするのかというふうに考えますと、いずれにしましても今こういう数字であるから今後こういう数字にしたいというふうなことになるわけですので、第1次の計画の総括、この数字、きちっとしておかないと基礎的なものをきちっとしてから進めないとなかなか進まないんじゃないかなというふうなことを感じるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

まさに議員のおっしゃるとおりと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

課長、先ほどもお話ありましたが、目標数値の設定に関してですけども、策定方針の中で、先ほどのように計画の中間でも成果と取り組みを検証しやすくするとともに計画終了時に達成状況を客観的に評価できる計画づくりをするということですから、これを期待しておりますが、特に計画中間での成果と取り組みの検証、この計画の中間というのは、どれぐらいのスパンで考えているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

その目標数値にもよるんですけども、本来であれば毎年見直しするべきというふうに思っておりますけれども、目標とする数値の統計のとり方によっては、2年に1回、3年に1回という、そういう場合もあるかと思っております。

ただ、いずれにしてもやはり先ほど議員おっしゃったとおり今の当市の課題は何か、それをどういうふうに解決していくのか、その結果としてどういう数値をどういうふうに改善したいのかというそういう目標数値のあり方というのをしっかりしなければそれも見えてこないというふうに思っておりますので、第2次の総合計画では、その目標数値のあり方というのは、しっかり詰めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

今回の計画期間というのは、平成29年度から平成35年度までの7年間ということですが、内容によっては、私は1年に1回の成果と取り組みの検証ではまずいというふうに思っております。特に、投資と効果を求められているところ、少なくとも毎月の成果を検証しないとすぐに改善とか見直しが図れるというふうにならないわけですので、先日の保坂議員の権現荘の経営に関する指摘もありましたけども、そのようにもっとサイクルを早くしなきゃいけないんじゃないかと思うんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

総合計画で目標とする指標というのは、事業のまた指標とは違うものというふうに思っております。やはり大きな流れの中で、いろんな施策をする中で、ある数字を、ある状況を変えていくという部分だと思います。

それとは別に各課で行っている事業、その取り組みがどうなのかというそういう部分については、やはり議員おっしゃるように毎月の確認というものも必要かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

総合計画の場合は、若干現実の実施計画と様子が違うんだということであればそのとおりかと思えます。

もう一点つけ加えて、実施計画上の問題で、数値指標で結構なんですけど、民間の我々の感覚からすれば、1つの政策事業においてどれだけコストを投入したか、人件費や維持管理費も含めて、まずこの数値、それから、そして具体的にその政策事業において何が生み出されたのか、ここも数値です。そして、成果として市民にどのような利便がもたらされたのか、ここも数値で見れたらいいと思うんです。そうしないと適正な評価ができないというふうに思うわけで、1つの政策事業に関して3つの数値指標が必要になるんじゃないかなと、またお願いしたいなと思うんですが、これは総合計画と違って実施計画で結構ですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現状では、事務事業評価というものをやっております。事務事業評価については、実施計画事業を対象にしてコストとか活動指標、それから成果指標、それから事業の有効性とか妥当性、公益性、そういったものを評価する制度ということで実施しております。

ただ、現状で見ると、やはり評価することが仕事になっているような状況も見られますので、やはりこの事務事業評価というのをもう少し有効的に実施できるような形に持っていかなきゃいけないと思いますし、そういう中での事務事業評価での成果指標のとり方、そういったものも非常に重要になってくるというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

今まで以上に、目標指標、目標値達成に向けて取り組みが求められているわけですので、この総合計画が適切に運用されるためには、まず職員がその内容をよく知ることが必要であります、その辺は大丈夫ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

課長を中心に職員に対してそのような指導がなされているものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

また、それから現場の職員の実践的なアイデア、これを総合計画に生かしていただきたいという思いがあるわけですが、計画策定過程への職員の参加機会、これについてはどのように、今回の総合計画作成に関して、庁内体制ということになりますかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

具体的には、各課でしっかり取り組んでいるものと思っておりますけれども、庁内体制としては、総合計画の庁内の策定委員会を設置しておりますし、審議会の場面では、部・課長が出ていただいたり、それから今、基本計画のほうの審議をしておりますけれども、その場面では各課の担当者も出席して審議に加わっていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

第 1 次総合計画の後期計画の途中で、今後 10 年間の長期財政見通しが策定され、厳しい財政見通しが示されたわけですけれども、既に決算が終わっている平成 25 年度、26 年度を見ますと、この見通しどおり動いているのかどうか、非常にギャップも感じているんですが、この点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

後期基本計画を策定したときに 5 年間の総額ではありますけれども、財政見通しを策定しております。この 5 年間の予算・決算の数字と比較してみますと約 190 億円、5 年間で 190 億円程度、非常に大きな数字ですけれども計画よりもふえた状況となっております。特に歳入では、交付税や国庫補助金、市債、そういった面でふえておりますし、歳出では、投資的経費が非常に大きく伸びております。そういうことを考えると、やはりこの 5 年間で新幹線関連の事業とか、公共施設の耐震化、そういったものに取り組んできた結果というふうに分析しておりますが、その一方で、実質公債費比率はよくなってきているということで、この結果というのは、やはり国の政策が非常に大きく関与しているものかなという、途中段階では、元氣臨時交付金みたいなものも入ってますんで、そういった国の政策によって、やはり地方の財政というのは、非常に大きく影響されるものという

ふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

市民アンケートでは、行政サービスのあり方に関して現状くらいでいいというのと、負担がふえてもいいというので合わせて69.8%あったわけです。

ただ、今後の財政見通しからすれば現状くらいというのは、そういうものが確保できなくなるというふうなことを想定できるだけに、今後、市民に対して理解、財政の厳しさというものを理解していただくという必要が出てくるんですが、極端なことを言うと住民の、市民の意識改革も進めなきゃならないくらい厳しい時代に入るんじゃないかと思うんですが、この第2次総合計画の大きな取り組みとしてその辺も必要になってくると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今、総合計画期間内の財政見通しも策定を進めております。財政が厳しくないということは、交付税をもらってる限り絶対ないんですけども、ただ財政が厳しいから市民負担を求めるというのは、少し違ってるとでないかなという、やはり市民との意識もあるんですけども、市民にとって何が必要かというそういう中で受益と負担の関係も出てくると思っておりますけれども。

それともう一つは、やはりまちづくりの協働という今まで行政でやっていた部分を市民の皆さん、地域の皆さんから担っていただくことによって行政経費の削減ということもできると思っておりますので、そういった方向でいろんな面でいろんな考え方で市のまちづくりというのは、今後進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

住民の意識改革はともかく、これから新たな政策の選択、これまでの事業の見直しを行っていくためには、今まで以上に市民の理解と協力が不可欠になってくるわけですので、特に財政状況に関する認識というのを市民と共有した上で政策選択、それから政策判断、これをしていく必要があるんじゃないかというふうなことを思っておりますので、いろんな手法を使ってわかりやすく説明をしていただきたいというふうに思います。

では、3点目について伺います。

新潟県100の指標に関するところですが、「統計いといがわ」でもかなりの項目にわたって数値と県内順位が掲載されておりますので大変参考になっておりますが、欲を言えば、この順位はどんなことでこの順位なのかという考察があれば非常にわかりやすいんですが、かかわっている人、

市民の士気、こういうものも上がってくるんじゃないかと思うんですが、これは統計の中で考察するというわけにはいかないんでしょうか。別のところでそういう解説等もしていただければと思うんですがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

井川総務課長補佐。〔総務課長補佐 井川賢一君登壇〕

総務課長補佐（井川賢一君）

お答えいたします。

「統計といがわ」のほうには、新潟県100の指標を載せさせていただいております。

また、担当のほうでは、過去の推移のほうも把握しておりまして、それぞれデータを把握してるところでございますが、その中身について考察というところまでは至ってない現状であります。

ただ、いろんな施策を立案する際には、このような実態を踏まえて、それぞれ事業計画等を立てていく必要がある。それは各課においてやられているというふうに判断しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

時間がありませんので、二、三お聞きしたいと思うんです。

まず順位の低いのは、女性の就業率、この30市町村中、毎年28ないし29位、過去10年間余りずっと見ておるんですが、ただ上位と下位の大きな率の開きはありませんので、そんなに心配はしてないんですが、この辺はどのように見ており、またどのような対策を講じているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

女性の就業率が低い部分につきましては、県内で28位になっているわけでありまして、先般ハローワークとの懇談会、2回目でありましたけども、そこで話をさせていただいて女性の就労という部分についてのハローワークの見解といいますか認識をお聞かせいただいたところでありまして、特に糸魚川地域においては、旦那さんが正規社員として働いて、奥さんのほうが子育て等しながらパートで就労しているという部分が多いというふうにお聞きしております。就業率の向上に向けましても女性が働きやすい環境づくり、例えばワークライフバランスでありましたり、そのような対策を講じて、この就業率の改善を図る必要があるというふうにお受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

安倍政権の日本の成長戦略の柱の1つに女性の就業率向上が挙げられてるわけですね。この国の政

策と合わせて向上させる必要があるのではないかというふうに思います。

それから次ですが、水稻の収量、ここ10年ぐらい毎年30市町村中28位ないし29位、この水稻の収量、10アール当たり480キログラムくらいに対して県平均が550キログラム、1位と2位の燕市、弥彦村が590キログラムですから反当たり60キログラムで、糸魚川市の8俵と燕市の10俵ということ、こちらはどのような対策を講じているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

水稻の収量とあわせまして、経営耕地面積も同じくらいの順位で県内28位となっております。糸魚川市の10アール当たりの収量が約480キロ、8俵でしょうか、県の平均が550キロですので約9俵近いというふうな数字となっております。当市の地形の特徴であります中山間地域でありましたり、急傾斜地でありましたり、あるいは平野部が少ないというふうな状況の中から、またそれぞれの圃場が持つ特徴もございます。田んぼの深度が浅いとか砂質が多いとか、いろんな水田での特徴があるかと思っております。いずれにいたしましても農業経営支援センター、あるいは県の糸魚川地域振興局農林振興部、JAと一緒にしまして収穫後も集落懇談会にどんどんと出ていっておりますので、そういうところで品質・食味を高める技術的なポイントを指導してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4番（渡辺重雄君）

新潟県で開発された新品種の「新之助」、いよいよ来年、平成29年度から一般の販売が開始されるということなんですが、こちらの品種は糸魚川の風土に対してはどのような影響、いわゆるどんな品種なのかちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

新之助につきましては、昨年も市内で一部、試験的に栽培をしていただきました。今年度につきましては、約2.1ヘクタールぐらいが割り当てになるというふうな見込みでありますので、新之助の研究会を立ち上げて取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。特に、収量面におきましては、コシヒカリと同じ程度だというふうにお聞きしておりますけれども、一般的に暑さに強い稲は寒さに弱いというふうなところもございますので、栽培の場所、標高をどれぐらいにすればいいのかということも見きわめながら研究会の中でみんな勉強していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

それから、課長、先ほどおっしゃいました 1 農家当たりの耕作面積、これも糸魚川市の場合は 28 位、1 ヘクタールに対して 1 位の弥彦村は 4 ヘクタールですから 4 倍ですね。そうしますと 1 農家当たり糸魚川市の 80 俵に対して弥彦村の 400 俵、5 倍の収穫になるわけです。この辺からも糸魚川市の稲作と申しますか農業も見えてくるような感じですが、売り方とか稲作以外の農業、これも視野に入れた対策が必要かと思うんですが、その辺についてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

経営耕地面積も県内では低いほうになっておりまして 28 位でございます。そういう中で反当たりの収量も低いということで、どのように農業の所得を伸ばせばいいかというふうなご質問でございます。

今、新潟県では、新潟スタイル園芸の促進ということで、早生のお米を栽培し、収穫した後に園芸を取り組むというものがありまして試みられております。昨年、糸魚川市内の農家さんにおきましても米の終了後キャベツを栽培されたというふうなことが、新潟園芸スタイルの一部の取り組みだろうというふうにご存じしております。

また、つくる時期を分散することによって農機具等を効率的に使うということも、コストの低減の中では考えていく必要があるなと思っておりますけれども、いずれにしましても米価の関係もございまして、農業を取り巻く環境は厳しいところでございますけれども、関係機関と一緒に農業所得の向上に努めてまいりたいというふうにご存じしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

4 番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。いろんな数値から糸魚川市の強み・弱みも見えてきますし、また数値の裏には市民全体の暮らし、あるいは個々の生活も見えてくるわけですが、教育とか福祉はなかなか数字でははかれない側面もありますけれども、行政もこれからは経営的に見ていかなければならないところも非常に多いだけに、経営とは数字であるというふうな考え方も大いに取り入れていただいて第 2 次総合計画策定に取り組んでいただきたいというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開、11 時 15 分といたします。5 分間の休憩をお願いします。

午前 11 時 09 分 休憩